

患者の皆様へ

2019年10月3日

眼科

現在、眼科では、「中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)における光線力学療法(PDT)前後の視機能」に関する研究を行っています。CSCは、光を感じる神経の膜である網膜の中で、最も視力に関係する部分(黄斑)に網膜剥離が発生する病気です。自然に治る場合もありますが、長期的に漿液性網膜剥離が改善しない場合は視力が回復しなくなります。治療法は保険適応の直接レーザー治療、保険適応外の光線力学療法(PDT)があります。直接レーザー治療は漏出点为中心に近い場合は行うことができず、そのような方でもPDTは安全に行うことができます。当科では倫理委員会承認のもと、PDT治療を行ってきました。今後の治療に役立てることを目的に、この研究ではPDTが行われたCSC患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)における光線力学療法(PDT)前後の視機能の検討」
2. 研究の意義・目的 CSCに対するPDT治療の有効性、安全性について調べる
3. 研究の方法 後ろ向き観察研究

PDTが行われたCSC患者さんの診療録に記載されている視力、網膜感度、光干渉断層計の所見について調べます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院眼科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院眼科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院眼科

医師 横内裕敬 岩瀬雄仁 043(222)7171内線6807